

岡崎市議会議長 様

支出番号

9

会派名

自民清風会

代表者名

中根 武彦

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和6年2月7日提出

活動年月日	令和5年8月1日（火）～4日（金）	
氏名	磯部亮次 廣重 敦 酒井正一	
用務先 及び 内 容	1	用務先 北海道 千歳市
	8月1日	内 容 千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について
	2	用務先 北海道 帯広市
	8月2日	内 容 「フードバレーとかち」について
	3	用務先 北海道 登別市
	8月3日	内 容 中学校土曜授業の取り組みについて
	4	用務先 北海道 恵庭市
	8月4日	内 容 「はぴナビカフェあたしん家」について
備 考		

政策調査視察調査報告書

報告者：廣重敦

視察日	令和5年8月1日(火)	視察地	北海道千歳市
視察内容	千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について		
視察者	磯部亮次、酒井正一、廣重敦		

視察目的：千歳市では、災害を学ぶ・体験する・備えるをキーワードに、いろいろな災害の疑似体験をしながら、防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学ぶ施設、千歳市防災学習交流センター「そなえーる」を設置。ここを防災学習の拠点とし、**防災講座や救急講習、自主防災組織の訓練**を行っているとのことで、利用状況を学び、本市の参考とする。

開催場所：千歳市防災学習交流センター「そなえーる」

説明者：そなえーる 佐藤施設長、議会事務局 谷口氏



タイトル：千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について

1. 千歳市の概要

- ・北海道の空の玄関口である**新千歳空港**があり、国内線の羽田-新千歳間は単一路線としては世界一の乗降客数を有している。
- ・札幌市や苫小牧市など4市4町に隣接し、ほぼ平坦な地形。
- ・市内には空港のほか、高速道路や港も近いことから工業団地が集積している。
- ・国立公園支笏湖など雄大な自然に囲まれ、四季の移ろいを感じることが出来る住環境と交通アクセスや生活利便性に優れた都市環境が調和する道央圏の中核都市。
- ・面積は594.5km²、令和5年4月1日時点での人口96,965人、世帯数は51,442世帯。
- ・道内で人口増加数は札幌に次ぐ2位、**増加率は市部で1位で北海道で一番若いまち**。
- ・陸上自衛隊東千歳駐屯地、北千歳駐屯地、航空自衛隊千歳基地の**3つの防衛施設が所在**しており、市内に居住する**自衛隊とその家族は人口の約25%**を占める。
- ・遡上したサケをインディアン水車で捕獲し、**人工ふ化事業で資源確保**に努めている。

2. 「そなえーる」建設の経緯

- ・千歳市街地の縁周部には、装軌車両、**主に戦車が頻繁に通行する**、延長約10kmの公道、**通称「C経路」**が通っており、一部住宅地を通ることから、沿線住民から**騒音振動による被害**などが寄せられており、環境改善に努める中、平成14年に防衛施設周辺地域の発展に貢献する**高額の補助制度が新たに創設**され、市の総合計画での位置づけ、住民との議論を踏まえ、**防災学習交流施設の整備を決定**。
- ・平成17年には正式に補助事業として採択、**防衛施設と共存した災害に強い安全なまちづくり**に向け、平成22年4月24日にオープン。(総事業費21億円、補助率75%)

3. 千歳市防災学習交流センター「そなえーる」

(1) コンセプト

- ・災害を「学ぶ」「体験する」「備える」をキーワードに疑似体験をしながら、防災に関する知識や**災害が発生した時の行動を学ぶ**とともに、**防災講座や救急講習、自主防災組織の訓練**など防災学習の拠点として活用。

【千歳市に関わる最近の自然災害】

- 平成 16 年 9 月 8 日 台風 18 号
- 平成 20 年 2 月 23 日 雪害
- 平成 26 年 9 月 9～12 日 大雨災害
- 平成 30 年 9 月 5 日 台風 21 号
- 平成 30 年 9 月 6 日 胆振東部地震
- ※ 他にも火山噴火、航空機災害、弾道ミサイルにも備える必要がある。

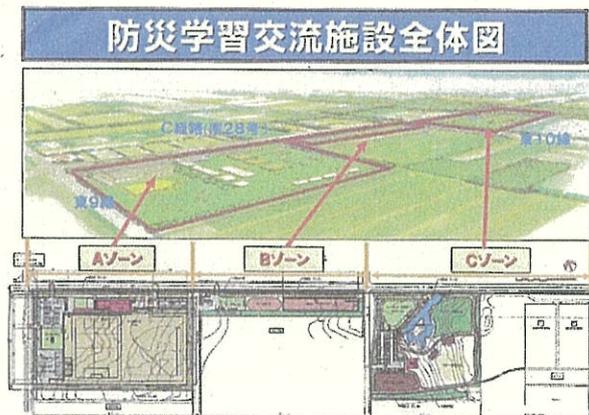


(2) 目的

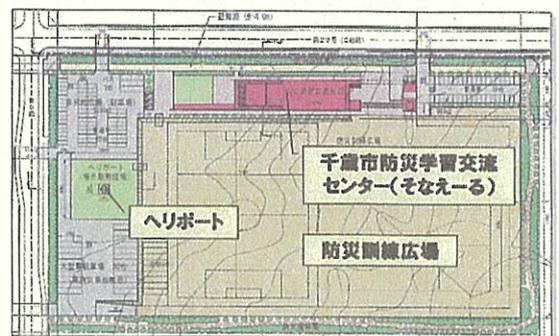
- ・市民、ボランティア、防災関係機関が**単独または相互に連携し、防災学習や防災訓練等を実施**することで、**市民や防災関係機関の防災力を高めるとともに**、防災関係機関に対する理解を深める。
- ・大規模災害発生時には、防災学習室(右写真)を千歳市の**第2対策本部**として使用。



(3) 施設

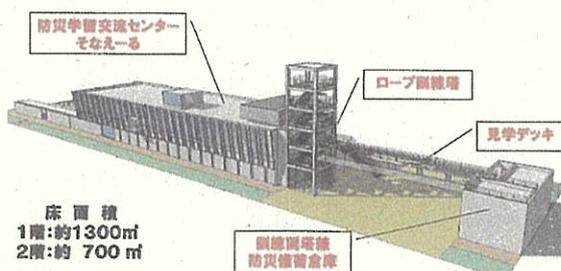


Aゾーン (面積: 4.3ha)



中核施設・そなえーる

訓練広場側からの外観



施設概要・展示コーナー

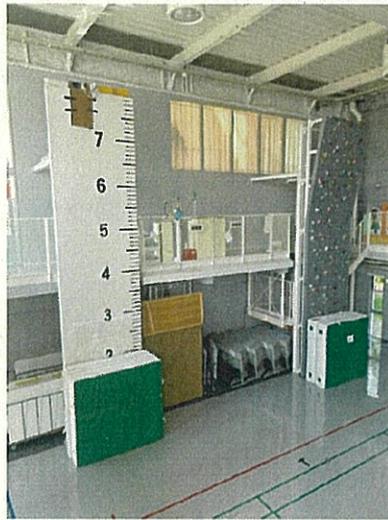
○ 地震体験コーナー

東日本大震災や胆振東部地震、熊本地震など過去に起きた大地震の揺れを実際に体験することができます。

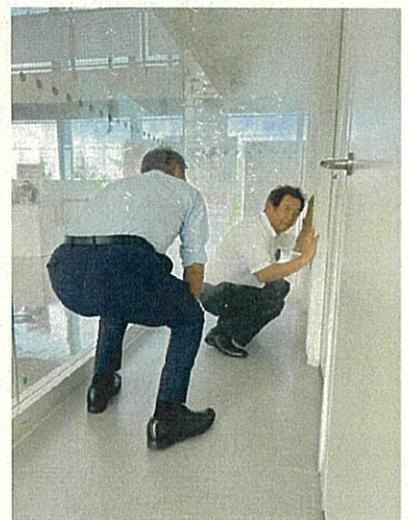




実際の地震体験



屋内訓練室



煙避難体験コーナー

4. 質疑応答…主なもの

- ・ **ここと同様な防災教育施設**は、北海道内に他にもあるのか？
→札幌以外では**ここだけ**、釧路には津波に特化した施設がある。
- ・ これだけの施設の運営に年間どれくらいかかるのか？ →年間 **3,500 万円**。
- ・ それは**全て市費**でまかなっているのか？ →Yes
- ・ 施設の利用状況は？
→**コロナ前は年間 4 万人前後**、コロナ禍 2 万人を切っていたが、**今年は 2 万人台に回復**する見込み。
- ・ この施設は無料とのことだが、敷地内のグラウンドも市民が自由に使えるのか？
→17 時以降 300 円で利用できる。
- ・ この施設の今後の課題は？
→部分的に**雨漏れが発生しており、修繕が必要**。
あとはリピーター、**新しいシステムの導入には 1,000 万円程度の予算が必要**になるため、**VR を用いた体験型シアター**も検討中。
- ・ 平成 16 年の台風 18 号では**支笏湖に向かう道路**が倒木で寸断されたということだが、**強風による倒木対策**はどのようにしているのか？
→当該地域は**国立公園**であるため**人工的な対策は出来ない**。
- ・ 地震に関して懸念は？
→千歳市の東部に「**石狩低地東縁断層帯**」がある。

5. 所感

- ・ これだけ立派な施設を千歳市だけで運営していることに驚き。訪れる方は異口同音にどう見ても**県の施設**ですね、と言われることに同意。
- ・ テーマパーク的な要素もあり、**リピーターを呼び込むためには、新たなコンテンツ**や国内外の**ホットな災害の情報**が欠かせないが、体験型をうたっているだけに、設備を改修したり、導入したりするには**予算が必要**になる。
- ・ **ただ、東日本大震災の年には 6 万人近い来場者**があったということであり、望むわけ

ではないが、大きな災害があったり、**防災意識が高まるイベントがあれば、人は集まる**のは間違いない。

- ・個人的なアイデアとしては、**広い駐車場があるため、車両避難の訓練**みたいなことを**メニューに加える**といいと思う。
- ・座学の最中にも**隣のC経路を装甲車が音を立て走行しており、千歳市が自衛隊と共存**している一端を垣間見た。
- ・本市も、今年6月2日の豪雨災害も含め、**過去の災害を疑似体験出来る施設**があると**自分事として訓練や意識付け**ができる気がする。

<同行者の所感>

・千歳市には自衛隊が駐屯しており、市街地縁周部では、戦車が頻繁に通行する(C経路)ことによる、騒音、振動の問題があり、市として課題解決を図ってきた。平成14年の「まちづくり構想策定支援事業」の創設を受け、C経路沿道の問題解決と市総合計画に位置付けている防災対策・自主防災組織の充実の観点から、住民との議論を踏まえて、防災学習交流施設の整備がされることになり、平成22年4月に供用開始された。総事業費21億(国庫補助75%・起債・市費25%)。施設は、総面積8.4ha。

Aゾーンは4.3ha、3階建て、延べ床面積2300㎡の防災学習交流センター「そなえーる」。2.4haの防災訓練広場、ロープ訓練塔、防災備蓄倉庫を兼ねた副訓練塔、常設ヘリポート、駐車場を完備。「そなえーる」は災害を「学ぶ」「体験する」「備える」をテーマに災害の疑似体験や防災学習を通じて、防災に対する意識を高めてもらうことを目的に、起震装置、煙避難装置、予防実験装置、避難器具などを備えた施設となる。

Bゾーン「学び広場」は広さ1.1ha。造成に伴う雨水調整池と消火体験や救出体験を通し、自助・共助を学ぶ広場となっている。

Cゾーン「防災の森」は広さ3haで約150人がキャンプ利用できる「野営生活訓練広場」と調整池を兼ねた「多目的広場」、湧水を利用した「河川災害訓練広場」「土のう訓練広場」、アスレチック遊具などを備える「サバイバル訓練広場」のほか管理棟、駐車場を配置し、共同作業が体験できる広場となっている。

利用者は、平成22年の37,644人から凡そ40,000人ほどで推移をしており、コロナになって、減少したものの、13年で483,705人ということである。

防災意識を高めるために、消防署職員をはじめ、町内会、自主防災組織、事業所、各種団体が利用している。

平成30年に起きた北海道胆振東部地震では土砂崩れなどが多数の個所で起こり、市民の防災に対する意識はさらに増している。

あらためて、県に一つは必要な施設ではないかと感じた。起震体験、煙避難体験などを体験したが、リアルに体験・体感することで、防災意識は高まる。

今後は、リピーターを増やしていきたいとの希望もあるが、メニューにどのような工夫が凝らせるかが課題と感じる。

大がかりな施設なので、市費単費では実現難しいものであったと感じる。運営には市費を投じているため、より、市民に有効活用してもらえることを期待する。

・そなえーるは、災害を学ぶ・体験する・備えるをキーワードに、防災に関する知識や行動を学ぶことができる施設である。地震体験装置に北海道胆振東部地震を追加し、体験クライミングを実施、地域防災係を設置するなど、千歳市の防災に関するさまざまな取り組みを行っており、市民の防災意識の向上や防災力の強化に大きく貢献している。本市では、起震車や煙道体験などの防災訓練会場で体験する資機材はあっても、そなえーるのような施設はなく、子どもから大人まで楽しみながら防災について体験できる施設が必要と考える。

政策調査視察調査報告書

報告者：廣重敦

視察日	令和5年8月2日(水)	視察地	北海道帯広市
視察内容	「フードバレーとかち」について		
視察者	磯部亮次、酒井正一、廣重敦		

視察目的：帯広・十勝は、わが国有数の食料生産基地として、大規模な農業が営まれている。農業に関連する大学、試験研究機関、企業が多く集積し、先進的な研究が進められており、農畜産物や加工品は、安全で良質な十勝ブランドとして、全国の消費者に広く受け入れられている。今回、「食と農林漁業」を柱とした地域経済産業政策「フードバレーとかち」の取り組みを学び、本市の参考とする。

開催場所：帯広市役所

説明者：フードバレーとかち推進協議会 事務局 、議会事務局 木下次長、石山主任

タイトル：「フードバレーとかち」について



1. 帯広市の概要

- ・北海道東部十勝地方のほぼ中央に位置する人口約17万人のまちで、1883年に本格的な開拓がはじまり、碁盤目状の道路網など計画的な市街地形成が行われた。
- ・昭和8年4月1日、道内7番目に市制施行。
- ・農業を主要産業とする十勝地方の中心地であり、農産物集積地、商業都市としての役割を担っている。
- ・面積は619.34km²、南西部は日高山脈が占め、市域の1割が「日高山脈襟裳国定公園」に指定されている。
- ・明治時代に農耕馬を競争させたことから生まれた「ばんえい競馬」は、旭川、岩見沢、北見の3市が撤退し、平成19年に帯広市単独開催で新たにスタート。
- ・平成20年環境モデル都市に選ばれており、低炭素社会の実現に向け取り組んでいる。

2. 十勝について

(1) 基礎データ

- ① 構成自治体 1市16町2村…右図
- ② 面積 10,831km² (うち帯広 619km²)
- ③ 人口 32.7万人 (うち帯広 16.3万人)
- ④ 気候 最高38.8℃ 最低-24.5℃
(帯広) 日照時間 2,015時間 積雪 80cm



(2) 入植の歴史

- ・ 明治 16 年 (1883 年)
 - ※札幌市⇒屯田兵 (国の職員)
 - ※帯広市⇒**晩成社**

晩成社：1882 年設立の**十勝の開拓を目的とした株式会社**…右写真

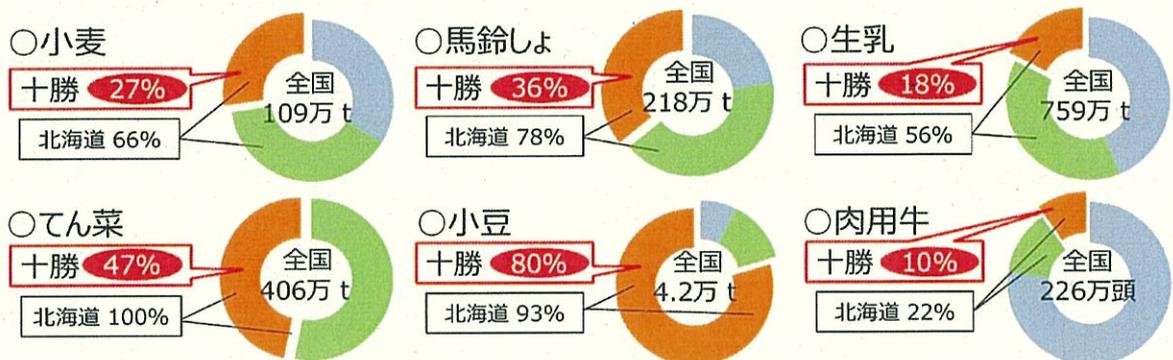


(3) 十勝の農業

① 資源

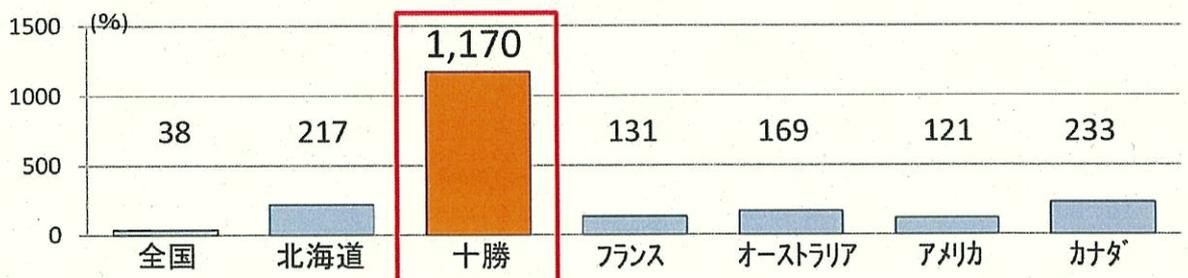
- ・ 耕地面積 2,500 ㎢ (十勝の全面積：約 10,800 ㎢)
- ・ 乳用牛 & 肉用牛 45 万 9 千頭 (人口：32 万 7 千人)

② 生産量…全国トップクラス



出展：十勝総合振興局 2022 十勝の農業

③ 食料自給率…カロリーベース 1,170% (約 400 万人分の食を生産)



出展：農林水産省 HP

④ リスクヘッジ

- ・ 同じ場所で同じ作物や同じ科の作物を続けて作ると病気や害虫が発生しやすくなり、生育が悪くなるため、十勝では**4 年周期の輪作**を行っている。…右図



⑤ 先進農業の推進

- ・ ロボット技術や ICT 等の先端技術を活用し、**超省力化や高品質生産等**を可能にする新たな農業で、高齢化や労働力不足、農作業における省力・軽労化、栽培技術力の継承に活用。
- ・ **GPS 機能によりトラクターの位置を測位**し走行経路を表示。そこに示された走行経路に沿ってトラクターを自動でハンドリングすることを実証実験中。(無人ではない)

⑥ 十勝管内の農協取扱高

・ 2010年から10年余りの間に約1.5倍に伸びた。



出典:北海道十勝総合振興局ほか「農畜産物に係る十勝管内農協取扱高について」

⑦ 十勝農業のポジション

・ 千葉県全体に次ぐ規模。

順位	都道府県	農業産出額
1	北海道	12,667
2	鹿児島県	4,772
3	茨城県	4,417
4	千葉県	3,853
5	熊本県	3,407
6	宮崎県	3,348
7	青森県	3,262
8	愛知県	2,893
9	栃木県	2,875
10	岩手県	2,741

十勝(JA取扱高)
3,494億円

伸び率(2010-2020)
全国 8.5%
全道27.4%
十勝**45.2%**

出典:農林水産省「令和2年度農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)」

3. フードバレーの由来

- ・ 農業/食の集積地を十勝に形成する。
- ・ 食品関連企業/大学/研究機関が集積したエリアの総称。
- ・ 九州よりも国土が小さいオランダが農産物の輸出額で世界第2位を保持している。



オランダ フードバレー



アメリカ シリコンバレー

4. フードバレーとまち

(1) コンセプト

- ・フードバレーとまちは、管内 19 市町村など産学官金 41 機関で構成する「**フードバレーとまち推進協議会**」を通じて、取組を推進。
(事務局：帯広市経済企画課)
- ・地域の強みである「**農業・食の成長産業化**」「**新産業創出・食の高付加価値化**」「**十勝の魅力発信**」の 3 つを柱に、2010 年から展開。



地域の強みである**農業を成長**させ、それを基盤とした**新たな産業を創出**し、十勝から**世界に向けて価値を発信**する。

(2) マネジメント

フードバレーとまち推進協議会

(産学官金41団体)

大学・試験研究機関

帯広畜産大学
北海道農業研究センター（芽室拠点）
家畜改良センター十勝牧場
北海道立総合研究機構十勝農業試験場
北海道立総合研究機構畜産試験場
公益財団法人とまち財団
国際協力機構北海道センター（帯広）

金融機関

日本政策金融公庫帯広支店
帯広信用金庫

農林漁業団体

十勝地区農業協同組合長会
十勝農業協同組合連合会
十勝地区森林組合振興会
十勝管内漁業協同組合長会

商工業団体

帯広商工会議所
北海道十勝管内商工会連合会
帯広物産協会
北海道中小企業団体中央会十勝支部
北海道中小企業家同友会とまち支部
十勝観光連盟

行政機関

帯広開発建設部
十勝総合振興局
十勝町村会

帯広市	広尾町
音更町	幕別町
士幌町	池田町
上士幌町	豊頃町
鹿追町	本別町
新得町	足寄町
清水町	陸別町
芽室町	浦幌町
中札内村	
更別村	十勝定住自立圏
大樹町	

(3) 推進の仕掛け

①十勝定住自立圏 形成（2011 年 7 月～）



②北海道フード特区 国際戦略総合特区 指定 (2011年12月～2022年3月)

・国際戦略総合特区1

・国際戦略総合特区2

国の制度の活用 ～北海道フードコンプレックス国際戦略総合特区 (HFC)～



投資誘発

580億円

(2012年～2021年累計)



長いも集出荷貯蔵施設



輸出対応型と畜場

品質の国際認証規格「SQF」や
衛生管理の国際基準「HACCP」を取得

③十勝バイオマス産業都市 認定 (2013年6月)



→バイオガス事業の投資誘発

バイオガスプラントの稼働状況



◆バイオガスプラントの稼働件数

51基/255基
(十勝管内) (全国)

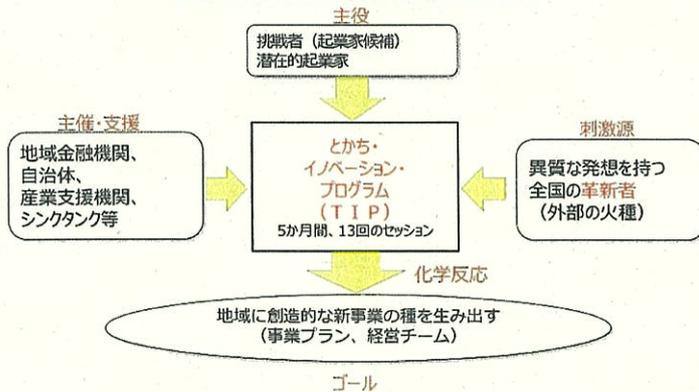
◆バイオマス産業都市の投資誘発

約216億円
(2013年～2021年累計)

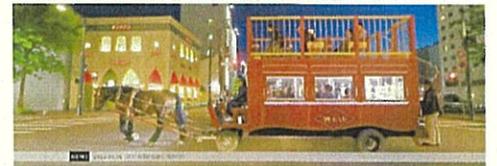


⑤ 十勝・イノベーション・エコシステム推進事業 (2016年8月～)

混血型事業創発プログラム



TIP から生まれた「馬車 BAR」



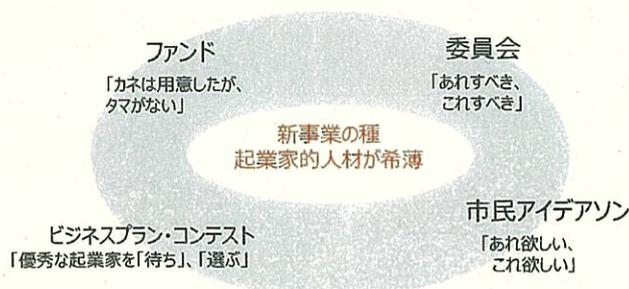
風景を変える

TIP から生まれた「やさいくる」

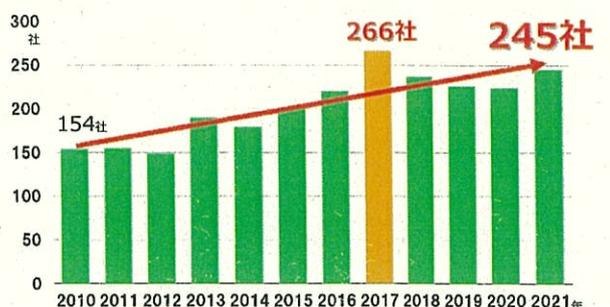


・プログラム8年間で、構想64件、事業化20件、参加者572名 (2023年1月時点)

なぜ、「とちか・イノベーション・プログラム」が必要なのか？



十勝での新設会社数



5. 企業との連携…明治、JAL、Pasco

LOVE+勝
PROJECT

明治と池田町ブドウ・ブドウ酒研究所とともに
オリジナルワインを開発



meiji ×

十勝産の乳酸菌を使用した
ヨーグルト商品の発売



ECサイト (JALショッピング) による十勝専用ページ



Pasco



・農畜産物の高付加価値化

食料品製造出荷額 **13%増**

(2010年: 2,890億円 ⇒ 2020年: 3,269億円)

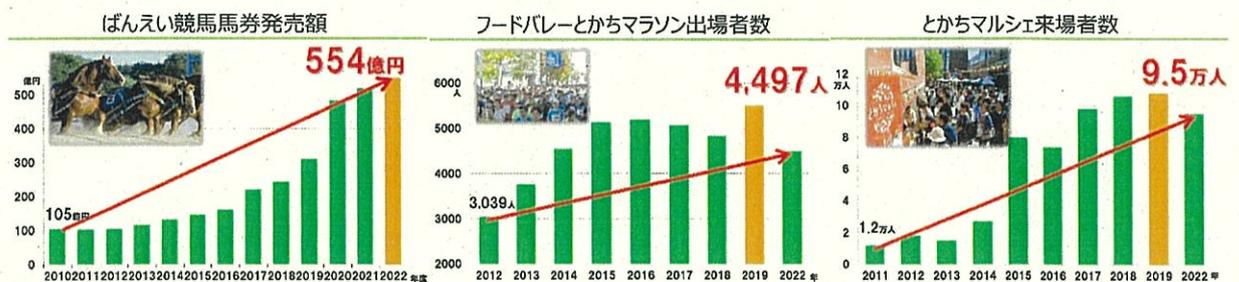


6. 十勝の魅力発信

- ・十勝の持つ雄大な自然空間をワールドクラスの本格的なアウトドア活動のフィールドとして活かし、心豊かなライフスタイルを求める顧客層に対して「ゆとり」と「癒し」にあふれたプレミアムな時間を満喫できる機会を提供。



- ・発信強化による効果が年々現れてきている。



7. これからのフードバレーとカチ

① キーポイント

- ・強い農業団体の存在
- ・帯広畜産大学、試験研究機関との連携（とち財団）
- ・最先端農業の推進 十勝発スマートフードチェーンプロジェクト（農研機構）

② 目指す姿

- ・最先端技術の導入、輸出促進
- ・食の安心安全の促進（HACCP、HALAL 認証）

※ 帯広市の市税収入は2009年から2021年で1,459百万円増加
 2015年から2045年の帯広市の人口減少率は11.6%（札幌市に次ぐ低さ）
 帯広の公示地価も2018年から2023年で上昇



8. 質疑応答…主なもの

- ・十勝の開拓は屯田兵（国の職員）ではなく、民間の晩成社が行ったとのことだが、土地は国から買ったのか、譲り受けたのか？
→江戸から明治に入り、北海道の土地は全て国所有になった後、無償、有償、いろんなケースがあったと聞いているが、晩成社については開拓目的で無償で譲り受けている。



- ・フードバレーとかちを始めて農業取扱高が1.5倍になったということだが、それは作付面積が増えたのか、生産効率が上がったのか？
→生産効率が上がっている面が大きい。家畜もより多く飼育できるようになった。
- ・リスクヘッジとして4年ローテーションで輪作を行っているとのことだが、全体のバランスは誰が行っているのか？
→十勝の農家は規模が大きいので、それぞれの中で畑を4つ以上に分けて行っており、今年は何かを作っていないということはない。
- ・この十勝エリアに若者を呼び込む移住施策等を行っているのか？
→UIJ ターンの取り組みは、それぞれ自治体単位で行っている。
- ・これからはIT活用も重要になってくると思うが、それはどこが担うことになるのか？
→そこはまだココというところがない。
- ・通常、国の支援メニューは自治体に対して設けられていると思うが、十勝はどのようにして「バイオマス産業都市」に国から認定されたのか？
→十勝19市町村による実施体制を整備し、計画作成やプロジェクト管理を行うことで認められたと認識している。
- ・フードバレーとかちに関する協定等は関係自治体の承認を得ているのか？
→19市町村全てで議決いただいている。

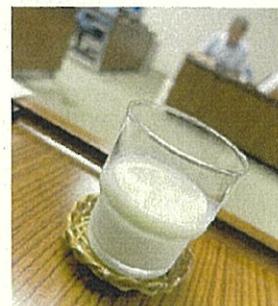
5. 所感

- ・そもそも19市町村が十勝の旗印の下に、これだけ連帯出来ることに不思議な感じもしたが、歴史的な背景、価値観を共有していることが、説明を聴く中で理解できた気がする。
- ・ただ、フードバレーとかちに関しては、現帯広市長のリーダーシップによるところが大きい印象は否めなく、2010年就任当初から現在4期を数えるこの市長が変わる時に今の体制が継続できるか、大変気になるところ。
- ・カロリーベースで1,200%の食料自給率（約400万人分の食を生産）を誇る、農業の強みをどのように地域の産業の好循環に結び付けていくかというところが肝になるがここでオランダのフードバレー、アメリカのシリコンバレーを例に集積地を形成することの大切さと、それが出来る地理的条件、環境が整っていることに着目したところが大きい。
- ・農家の規模が大きく基盤の目に整っているのを見ると、将来のトラクターの自動化も

含め、うらやましい限り。

- ・とはいえ、愛知県も日本で8番目の農業産出額を誇り、私の住む六ツ美地域も、養鶏含め農業は盛んであり、商工会も有しているため、**イノベーションの部分については参考に来るところも多く、関係者と議論を進めたい。**
- ・また、始まりは農業であるが、**人流、物流がさかんになる中で、いろんなビジネスに波及し、十勝ドリームが次から次に生まれつつある成功事例として、大いに学ぶべき視察であった。**
- ・最後に、個人的に**大きなインパクトを感じたのが、会議室に入った時に出てきた牛乳。**

おいしいのはもちろんだが、これまで数えきれないほど会議に参加し、**コーヒーやお茶以外の飲みもの**が出てくるのもあまり覚えがない中、牛乳の与える驚きは予想以上で、岡崎にも**このような武器が必要**と感じた。



<同行者の所感>

- ・「フードバレーとかち」については、事務局を帯広市が担い、先導役として確立をしてきた。

そもそも「十勝」は1市16町2村から形成され、面積10,831k㎡、人口32.7万人を有する。1880年代に晩成社という民間会社が入植し、開墾してきた歴史があり、行政区域の別ではなく、開拓者精神に則った人々の繋がりが強く、他地域とは違う特別な地域として発展してきた。

言うまでもなく、地域経済は農業を主産業として成り立ってきた。全国屈指の農業生産高を誇る北海道においても、その4割を「十勝」が担っている。

「フードバレーとかち」は、個々の行政区において、それぞれ農業の発展に努めてきたものを、行政区を超えて、「十勝」として、「農業・食」の集積地として形成を図り、「地域の強みである農業を成長させ、それを基盤とした新たな産業を創出し、十勝から世界に向けて価値を発信する」ことをコンセプトに2010年から展開されている。管内19市町村に産学官金41機関で構成される「フードバレーとかち推進協議会」が推進母体となっている。

○十勝定住自立圏の形成 ○北海道フード特区 国際戦略総合特区指定 ○十勝バイオマス産業都市認定 ○十勝・イノベーション・エコシステム推進事業などを推進エンジンとし、各地域の役割分担による連携・協力により事業展開を推進している。帯広市は都市機能を、他18町村は、資源・特性・産業・文化の発展を中心に担う。

特区として、食産業の研究開発・輸出拠点の形成、東アジア市場を狙った戦略。すでに投資誘発で580億円の実績をもつ。

バイオマス産業都市構想では、既設のバイオガスプラント51基を有し、エネルギー転換と液肥での農業への循環を図り、既に216億円の投資誘発の実績を上げ、更に30基のプラント設置の計画を持っている。

農協取扱高は2010年2,380億円から2022年3,494億円へと成長し、全国屈指の農業生産地として確立している。

また、企業連携も進み、meiji、JAL、Pasco 他との提携により高付加価値製品を開発し、食料品製造出荷額は 2010 年 2,890 億円から 2020 年 3,269 億円へと市場を増やしている。

また、イノベーション部門では、ベンチャービジネスの創出も図り、8 年間で構想 64 件、事業化 20 件、起業参加者 572 名の実績を持つ。5 か月間 13 回のセッションにより、創業された事業はかなり精度の高いものに仕上がっており、収益事業として、確実に歩みを進めている。新設会社数も 2010 年 154 社から年々増加しており、2021 年では 245 社に上っている。

また、コア・コンピタンスよる地域の成長は、もともとあった資源にも波及する。ばんえい競馬は全国でも十勝にしか無いものである。2010 年 105 億円であった馬券販売額は 2022 年には 554 億円となり、増加の一途をたどってきた。市税も増加し、人口減少率も低下し、公示地価も上がっている。

地域活性化の成功事例として屈指のものであると言っても過言ではない。今後の海外への展開に対しての大いなる期待、そして、大規模農業による技術革新と最先端農業への期待など、まだまだ十勝の魅力発信には可能性があり、ワクワクする。今後もしっかりと注目していきたい。

政策調査視察調査報告書

報告者：廣重敦

視察日	令和5年8月3日(木)	視察地	北海道登別市
視察内容	中学校土曜授業の取り組みについて		
視察者	磯部亮次、酒井正一、廣重敦		

視察目的：子どもたちの**豊かな土曜日の過ごし方**を実現するため、授業のほか**地域と協働した行事に取り組む機会を創出**する等、学校の教育活動を外に開き、**社会・地域との連携・協働を促進**している。
また、学校公開日「ふれあいDAY」の設定等**積極的な学校の公開**に努めており、学校公開の推進の在り方の本市の参考とする。



開催場所：登別市役所

説明者：村井副議長、教育委員会 菅田参与、西川原総括主幹、議会事務局 山本氏

タイトル：『中学校土曜授業の取り組みについて』

1. 登別市の概要

- ・北海道中南部、支笏洞爺国立公園の中核に位置し、一つの温泉に多彩な泉種を持つ**登別温泉を抱える北海道有数の観光都市**。
- ・地獄谷に向かうあたり一帯はたくさんの鬼が飾られ、観光名物と化している。
- ・明治時代後半、幌別鉱山の開発が本格的に進み、金、銀、銅、硫黄の採掘が行われ、**硫黄は大正5年から大正8年にかけて日本一の産出量を誇った**。
- ・丘陵地では酪農も行っている。一方、市中西部は室蘭市からの市街地が続いており、「**工業都市**」の一翼を担っている。
- ・面積は212.21㎢、令和5年6月末時点での人口44,745人、世帯数は24,090世帯。
- ・1970年に全国で570番、道内で30番目に市制を施行。
- ・北海道の中では**比較的温暖で雪が少ない地域**となっている。
- ・人口減少が進む中、楽住のキャッチフレーズの下、**移住施策にも力**を入れている。

2. 「土曜授業」導入の背景・経緯

(1) 学校週5日制導入

- ・子どもたちが**個性を生かしながら豊かな自己実現を**図ることができるよう、平成4年9月から段階的に実施。
- ・これに呼応する形で平成4年中学校区を拠点に「学校週5日制運営委員会」を組織、完全学校週5日制が導入された平成14年には「**子ども地域交流プラザ**」と改称し、組織を発展させながら地域の理解と協力のもと、土曜日における子どもたちの豊かな**体験活動を中心に据えた特色ある授業**を展開。

(2) 北海道教育委員会から評価

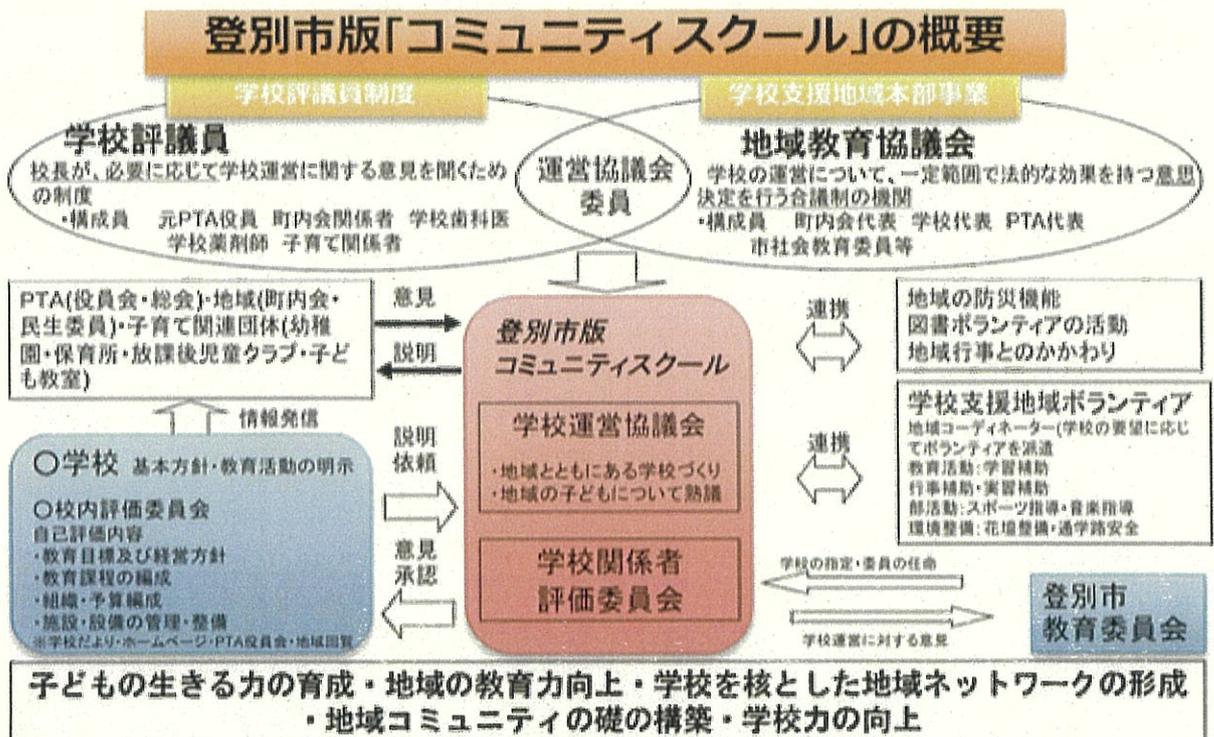
- ・平成 23 年に**地域協議会**を立ち上げ、**学校、家庭、地域の連携強化**を図ることで、親子のふれあいや地域との交流が図られるようになり、**自然体験、レクリエーション等の施策**に取り組む。
- ・平成 25 年学校教育法施行規則の一部改正により、**教育委員会が必要と認めることで、土曜授業の取り組みが容易**になった。
- ・平成 4 年からの取り組みが評価され、北海道教育委員会の要請を受け、**平成 26 年度登別市内各中学校で土曜授業を開催**することに。

(3) 学校・家庭・地域の連携

- ・校長会や町内会等と連携して、**家庭や地域に土曜授業の意義を繰り返し周知**。
- ・地域から招く外部講師の授業、**地域住民との合同避難訓練、地域清掃**の取り組み。



- ・地域行事や社会教育団体、スポーツ団体の事業にできるだけ影響しない日程。
- ・教員の勤務環境等についても、長期休業で振替をとれるように市内統一で整備。
- ・土曜授業と同じく平成 26 年度から 10 年目となる**学校運営協議会（コミュニティスクール）**についても先進的に推進していく。…下図参照



3. 中学校土曜授業の内容と振り返り

【狙い】

- ・学校、家庭、地域が一体となって連携して子どもたちを育てる風土の確立。
- ・中学校5校、小学校8校の全13校で実施する中で、中学生はじめ子どもたちにも、地域の問題に関心を持ってもらう。
- ・内容は学校ごとに任せ、学校や地域の特色を生かすものとする。…下図参照



【実施してきたこと】

学校や地域の特色を生かす

◎特色ある教育活動

- ・地域伝統芸能 ・地域の自然や歴史学習
- ・ふれあい農園体験 ・さけます採卵、放流
- ・スキーや柔道などの講師 ・川遊び

◎教育活動

- ・放課後や長期休業の学習補充支援
- ・野外体験活動支援 ・キャリア教育支援
- ・外部講師 ・学校図書ボランティア

◎安心・安全

- ・登下校見守り活動 ・地域合同避難訓練
- ・通学路安全点検 ・防災教育 ・美化活動
- ・学校避難所運営

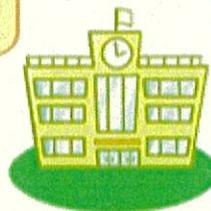
どのような学校を目指すのか

◎学校評価

- ・学校経営方針 ・学力や体力向上の取組
- ・教育課程編成 ・学校行事やPTA活動
- ・学校評価結果と分析 ・学校改善の志向

◎その他

- ・一貫教育の推進 ・学校課題の解決
- ・いじめや不登校への対応
- ・地域活性化や地域課題に係る協議



15

【振り返り】

- ・ どのような活動を残して、どのような部分を改善していくのか。

これまでの取組を生かす



学校

- 登下校見守り・安全パトロール
- 学校花壇・学級園整備や維持管理
- PTA環境整備事業
- 学校支援地域本部事業(ふれあい農園・稚魚放流等) …



CS

- ◎学級園ボランティア(畑の先生)
- ◎見守り隊
- ◎学習支援ボランティア
- 地域合同避難訓練
- 地域懇談会

地域への
要望



地域

CSへの
要望

◇学校支援地域本部事業→「地域学校協働本部事業」

16

【効果・実績】

- ・平日ではできない**学校行事や地域とのつながり**をもつことができる。
- ・**地域人材活用や体験活動の機会**が増えた。
- ・地域や保護者が**子どもたちの様子を見る**ことができ、**授業参観の機会**が増えた。
- ・平日の**6時間授業の削減**ができた。
- ・子どもたちや教職員に余裕「ゆとり」が生まれた。
- ・教職員の**業務負担改善の一助**となる。
- ・登別中学校の地域伝統芸能の取り組み「熊舞」(右写真)引継式。…ビデオ紹介



4. 質疑応答…主なもの

- ・土曜日学習で平日授業にはゆとりが生まれるとは思いますが、**負担は軽減しているのか？逆に6日勤務が負担になっていないのか？** 生の意見は？
→最近、**なぜ土曜日に出て来ないといけないのか**という意見も多い。
- ・コロナ禍で影響はあったと思うが？
→授業を公開できない状況になったり、難しさはあったが、**デジタル活用等で継続**してくることができた。
- ・土曜日授業が始まった**初めてのお子さんとその次の弟さんや妹さん**の時とで親の反応に変化は見られるのか？
→土曜授業自体には**馴染んできている**と感じる。
- ・学校間、地域間、外部講師などで、好事例を紹介し合うような機会はあるのか？
→**校長会、教頭会**といった場で**事例の紹介や意見交換**は行われている。
- ・岡崎市では**協議会**は小学校では開かれているが、**中学校になると閉じている印象**を受けるが、こちらではどうか？
→**中学校土曜教育**がそこに対する**アプローチの一つ**。
- ・小中学校の土曜日学習の日程は同じ日が多いような気がするが？
→**小中学校合同で行うもの**もあれば、兄弟で親の負担を増やさないための配慮もある。

5. 所感

- ・今年**10年目を向かえる節目**ということでこれまでの取り組みをまとめ、これからの方向を検討しているところであったため、**大変いいタイミング**であった。
- ・導入の部分で共感したのが、**子どもたちにも地域で起こっている問題や出来事に関心を持ってもらいたい**、というところ。
人口が毎月20~30人減っている地域としては、子どもたちに**自分たちが住んでいるまちに愛着を持って欲しい**という思いが特に強い印象を受けた。
- ・注目すべきは、土曜授業を始めてから生徒アンケート結果で「**学校や地域をよりよくしようと積極的に行動した**」という回答が、**全体で10%ほど**増えている点で、中学生になると社会参加の意識がゼロではないということで、**このような取り組みがやがて投票率を上げる**ような気もする。
- ・また、大変いいと思った取り組みに**地域合同避難訓練**がある。私の住むところでも地域

は地域、学校は学校で避難訓練を行っているが、**避難訓練こそ地域オーバーオールで行うべき**で、その意義は大きいと感じた。

- ・ 更には、**卒業した大学生を講師として呼ぶ外部活用**など、放っておくと接点など無い人たちが、土曜授業を介して関わり合うことで、**地域の活性化**につながっているし、**人材発掘の場**にもなっている。
- ・ ただ、先生の土曜日出勤の負担感、子どもたちには振替が無いことなど、**土曜授業は絞り込んだうえで、頻度は減らしていく方向**は仕方ないと思う。
- ・ 最後に、**登別中学校の「熊舞」**は素晴らしい**伝統芸能**で、無形文化財に該当するのかわからないが、**確実に引き継いでいけるように仕組みに落とすべき**と感じた。

【同行者の所感】

- ・ 登別市における土曜授業の取組は早く、学校週5日制が導入された平成4年から月1回、平成7年からは月2回という形で行われてきた。平成14年に完全週5日制が導入されてからも、土曜日における子どもたちの豊かな体験活動を中心に据えた特色ある授業を展開してきた。平成23年度から、地域協議会を立ち上げ、学校・家庭・地域の連携強化を図り、親子のふれあいや地域との交流が図られるよう各種事業や社会教育施設等を活用した自然体験、レクリエーション等の施策に取り組んだ。

平成25年に学校教育法施行規則の一部改正によって、県教育委員会が必要と認める場合に土曜授業実施ができるよう緩和されたのを受け、北海道教育委員会の要請を受ける形で、先進的であった登別市教育委員会として、平成26年度より、市内中学校で実施されることになった。「地域とともにある学校づくり」をコンセプトに学校運営協議会(コミュニティスクール)を創設し、子どもの生きる力の育成・地域の教育力向上・学校を核とした地域ネットワークの形成・地域コミュニティの礎の構築・学校力の向上を図るものとした。現在は年4回開催されている。

取組の効果と実績については、学校行事や地域とのつながりを持つことができる、地域人材活用や体験活動の機会が増えた、地域や保護者が子どもたちの様子を見ることのできる授業参観の機会が増えた、平日の6時間授業の削減ができた、子どもたちや教職員に「ゆとり」が生まれた、教職員の業務負担改善の一助となったことなどが挙げられている。

未来に向けて考えるときに、部活動が軽減化され、地域スポーツクラブに委ねられてきている現状も踏まえると、実は土曜日の子どもの出席率が低下している点が見過ごすことのできない課題として挙げられる。現状7割程度の出席率になっているとのことである。

始まった当初とは環境が随分変わってきているため、継続についても議論が出てくるであろう。しかしながら教職員の働き方改革の点からいって有効であるとするならば、継続する意義が見いだされていくとも考えられる。

どの地域も、子どもの環境、教職員の環境、地域の考え方、それを融合して、より良い形を模索するのに苦勞していることは、再認識できた。

- ・ 平成14年度より完全学校週5日制導入後、平成23年度より学校支援地域本部事業

と統合し地域協議会を立ち上げて「地域とともにある学校づくり」として地域、学区の方々には学校内の事、生徒を含めた学校側は地域の良さを理解し、土曜日授業において、地域防災訓練などでコミュニケーション能力向上に大いに成果が上がったと聞いた。また、伝統芸能の伝承にも大いに役立ち生徒の積極性が向上したとも言われた。しかしながら、取り組み開始10年の節目を迎えるにあたり、その間、新型コロナウイルス感染症の対応や生徒の部活動の大会参加の取り扱い等、諸問題があるとも聞いた。本取り組みを、岡崎市に導入をした場合、先生の不足、負担増大などを考えるに現実的ではないと考える。

政策調査視察調査報告書

報告者：廣重敦

視察日	令和5年8月4日（金）	視察地	北海道恵庭市
視察内容	「はぴナビカフェ あたしん家」について		
視察者	磯部亮次、酒井正一、廣重敦		

視察目的：子育て中の親が悩みを抱えて孤立することがないように、北海道教育委員会が実施する研修に参加し認定を受けた「家庭教育ナビゲーター」が交流・学び合いができるようサポートし、保護者同士が気軽に子育ての悩みなどを話せる移動型サロン「はぴナビカフェあたしん家」を月1回ペースで開催している。

その取り組みを学び、本市の参考とする。



開催場所：フレスポ恵み野

説明者：恵庭市議会 長谷議長、太田議員、議会事務局 吉川さん、社会教育課 黒氏課長、津田主査、家庭教育ナビゲーター ■■■さん、■■■さん、■■■さん

タイトル：『はぴナビカフェ あたしん家』 について

1. 恵庭市の概要

- ・明治6年寒冷地で初めて水稻栽培に成功。その後、**山口県を始め石川、富山から集団移住が進み、道央の農産地として発展。**
- ・1970年地方自治法の特例で伊達、登別とともに、34,500人で恵庭市に市制施行。
- ・面積は294.65km²、令和5年3月末時点での人口70,069人、世帯数は35,007世帯。
- ・札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置しており、**恵まれた交通アクセスと穏やかな気候風土**を持つ。
- ・**恵庭溪谷は「白扇の滝」や「ラルマナイの滝」などが点在し、市の観光スポットとして楽しむことができる。**
また、最近では**市民主導による花のまちづくり**が盛んで「**ガーデニングのまち**」として全国的に知られ、2022年の**全国都市緑化フェアのメイン会場**に選ばれている。

2. 「はぴナビカフェあたしん家」の発足経緯と取り巻く環境

(1) 恵庭市の家庭教育支援事業の変遷

- ・平成20年度 恵庭市教育委員会主催で「家庭教育セミナー」を実施。
- ・平成28年度 受講者15名で「**家庭教育ナビゲーター養成講座**」を初開催。
「家庭教育セミナー」は「**えにわままっぷ**」として継続実施。
- ・平成30年度 「えにわままっぷ」を補う支援事業として「**学びカフェ**」を実施。
ナビゲーターの「スキルアップ研修会」を実施。

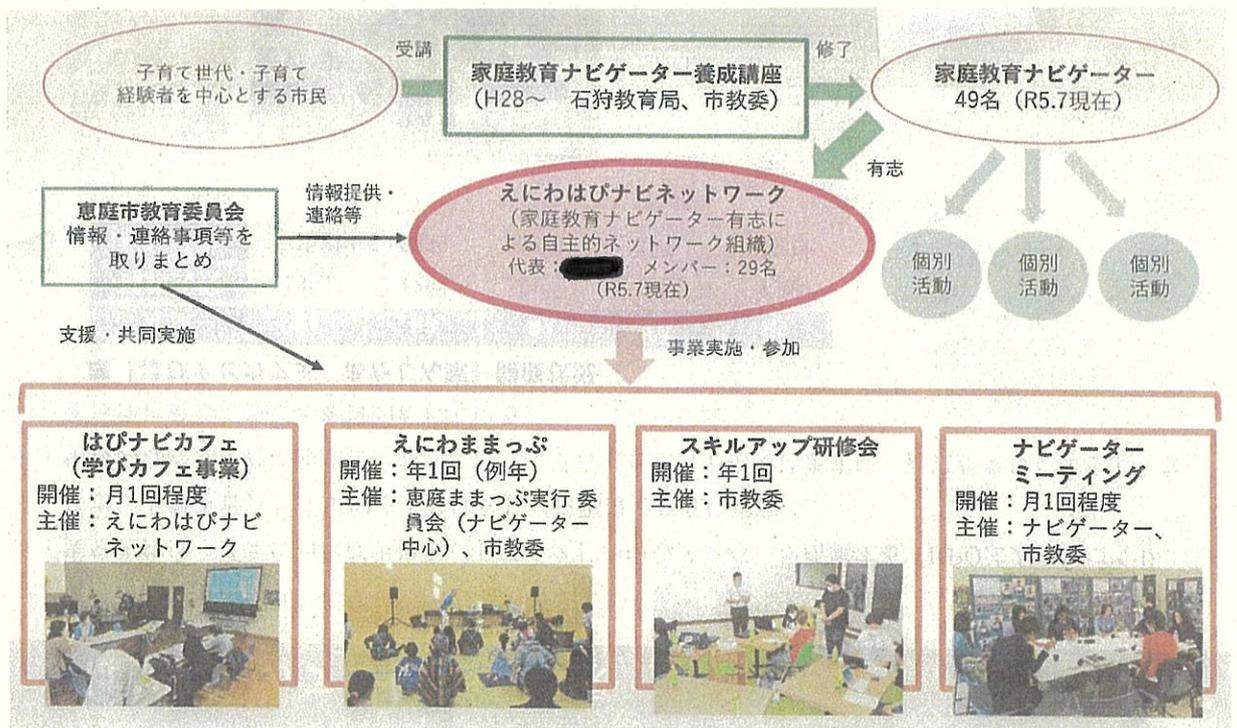
- ・令和元年度 「えにわはぴナビネットワーク」の発足に伴い、従前の支援事業が「はぴナビカフェ あたしん家」となる。
- ・令和4年度 「家庭教育支援チーム（文部科学省）」に登録。
- ・令和5年度 「えにわはぴナビネットワーク」の中心メンバーが所属する「NPO 法人 まちづくりスポット恵み野」と「NPO 法人おはな」が「はぴナビカフェ」を隔月で企画、運営。

(2) 家庭教育ナビゲーター（右写真：同席いただいた方）

- ・北海道教育委員会が実施する「家庭教育ナビゲーター養成講座」の受講完了により認定。
- ・保護者同士が気軽に子育ての悩みを共有し、交流するといった学び合い、助け合いをサポート。
- ・何かを教えたり、話し合いの場を仕切るのではなく、参加者自身が新たな気づきや考えるきっかけをつくるのが大きな役割。
- ・コロナ禍で研修が中止された年もあるが、恵庭市では平成28年から令和4年までに49名の方が認定者として登録。…現在活動されている方は29名



(3) えにわはぴナビネットワーク（下図：家庭教育ナビゲーターをハブに連携）



3. 「はぴナビカフェ あたしん家」…前述の2つのNPO法人が隔月で交互に実施

- ・地域の中で子育て仲間と出会うことで、子育てを一人で抱え込まずに、育児が楽しくなるようなきっかけをつくることを目的としている。

【開催状況】

R2～R3年度についてはオンライン同時開催

年度	R1	R2	R3	R4	R5
実施回数	13回	12回	11回	9回	4回
参加者数	未集計	84名	58名	61名	未集計

令和5年4月

令和5年5月

令和5年6月

2023年4月16日(日)

PPによる子どものためのカフェ
はびナビカフェ あたしん家

消しゴムはんこ作り

※子連れ大歓迎

先着10名
①13:00~
②14:00~

参加費:1,000円

場所:まちス水産野野
[東野野里2-15]

「趣味が高じて講師資格を取得。仕事や家事の合間に、周りがニコッと出来るはんこ作りを楽しんでいます。消しゴムハンコインストラクター小原麻美さん

申込・お問合せ

つながりサポート女性支援事業
女性による女性のための居場所づくり

女性限定のサロンです。
会費の負担はありませんので子どもから大人まで参加が出来ます。
コロナ禍等において、様々な不安や悩みを抱えている方(病気、家庭、子育て、不登校など)お気軽にご参加下さい。

日時 5月18日木曜日
10時00分~12時00時
場所 花の拠点はなふる内集会所
(恵庭市南島28-3)

参加費 無料
予約なし(直接、会場に起こして下さい)

生理用品の購入が困難な方へ
生理用品の配布も行っております。
(アンケートにご協力ください)

地域サポーター一級養成講座

問い合わせ
NPO法人あはな 080-4044-8313
恵庭をつくるの最新情報、地域サポーター養成講座の情報はQRコードからどうぞ!

子育て支援
大歓迎!!

コメントも感想も歓迎。他の方に書かれませんので、ご感想など安心してコメントして下さい

はびナビカフェ
「あたしん家」合同開催

mamapu mamapu.hapinavi@gmail.com
2F 80908082

ママによるママのためのカフェ
はびナビカフェ あたしん家

フリ子の会
(フリーランスな子にフリ子あだてる(笑)団の会)

はじめてみます

ある日突然、『学校行かない』宣言くらいました。
多様性の時代だし、学校だけが道徳じゃないよ。
自分の考え持ってるなんてすごい!うらうん!

なんて思えな-----い!
ま?マツも行かないの?明日も行かない?
嘘でしょ?欠席理由なんて言えば?
超強どうんの?
えー!振り回されてるの私だけ??
みんなどうしてんのー??
教えてみんなー!!

フリ子の会での必須参加者(1)の秘密です。

会場 まちづくりスポット恵野
日時 6月16日(金)13時~15時
参加費 無料

お問合せ mamapu.hapinavi@gmail.com
主催 恵庭市児童救済ナビゲーター はびナビネットワーク
支組 恵庭市社会福祉課 協力 認定NPO法人まちづくりスポーツ恵野

消しゴムはんこづくり 女性限定サロン フリ子の会
※ フリ子:フリーランス(自由にふるまう) な子に振り回されている親

3. えにわままっぶ

- ・家庭教育ナビゲーターのほか市内の学生ボランティアを中心とした「えにわままっぶ実行委員会」と市教委との共催により年1回実施。
- ・子育てに役立つ体験や、子どもたちが遊べるスペースに加え、さまざまな催しなどを盛り込んだ楽しい体験イベント。

【開催状況】

年度	テーマ	実施日	参加者
H28	えにわままっぶ:あそんで!出会って! えにわの子育てを楽しもう!	2/26	約60組200名
H29	えにわままっぶII:みんなで話そう! ウチの衣食住のこと	10/15	約50組150名
H30	えにわままっぶ:子育て世代の防災について	2/23	32組60名
R1	えにわままっぶ4:家族みんなで子育て楽しもう	1/19	28組64名
R4	えにわままっぶ5:えにわの子育て楽しもう	11/23	23組45名

R2~R3年度についてはコロナ禍により開催中止

【案内チラシ】

えにわままっぶ 2/26(日) 10:00~15:00
おきんで!出会って!
えにわの子育て楽しもう!

ファミリデーも!
ママだけでも!大歓迎!

他にも
・アナログゲームコーナー
・工作体験
・ハンドマッサージ体験
・読み聞かせコーナー
などもあるよ!

※がついているものは100円の体験券がかかります。体験料は全額えにわ・花子さん協賛費に充てられます。

まだ定員・時間が決まっているものもありますのでご了承ください。

みんなで楽しく!
新聞紙あそび

笑顔でふれあい!
ベビーマッサージ

親子でいっしょに!
ふれあいヨガ

はびナビ
ステーション

はびナビステーションでお話しながら子育てについて語り合おう!

えにわままっぶ3
~子育て世代の防災~

2/23(土) 10:00~15:00
in えにあす
2階 会議室 など

はびナビ
カフェ

体験!
ポリ袋調理!

午前の部 11:00~
午後の部 13:30~

防災食の試食体験

子育ての遊び場

・新聞ボール
・段ボール迷路 など

4. 参加者の主な声と今後に向けて

(1) 参加者の主な声

①「はぴナビカフェ あたしん家」

- ・フリ子の会参加者……子どもに関する共通の想いについて話ができる人たちがいることに感動した。
- ・消しゴムハンコ参加者…こういう機会がないと体験できないのでよかった。
- ・防災の会参加者……もっと多くのママたちに知ってほしい。子どもと一緒に参加できることを知ってもらって、実際に参加してほしい。

②えにわままっぶ

- ・久しぶりに家族以外のいろんな人と会って話げできた。
- ・土日や祝日のイベントだと参加しやすくていい。
- ・大学生がたくさん遊んでくれて、子どもたちも楽しんでいた。
- ・反抗期対策とか、もう少し大きい子ども向けの講座もお願いしたい。

(2) 今後に向けて

- ・「はぴナビカフェ」を隔月で運営している2つのNPO団体に負担が集中しているため、継続的に行うためには負担軽減が必要。
- ・実施内容もこのままでは同じようなものの繰り返しになるため、より多くの家庭教育ナビゲーターを巻き込み、幅広い参加者を獲得していける体制を整えていかなければならず、そのために、「はぴナビカフェ」の運営にかかわる仲間づくり、仕組みづくりを検討する必要がある。

4. 質疑応答…主なもの

- ・市で用意している「はぴナビカフェ」の運営予算はどれくらいか？

→会場使用料のみ、あとは全てボランティアで行ってもらっている。

- ・「家庭教育ナビゲーター養成講座」で認定後、資格の更新は行わないのか？

→年1度開催するスキルアップ研修会がその役目を担っている。

私たち自身も始めた10年前と比べ子どもも

大きくなり、悩みも変遷してきており、新たな学びの必要性は痛感している。

- ・深刻な問題を抱えているケースもあると思うが、どこまで対応するのか？

→解決の場では無いので、傾聴した上で必要なところに繋ぐ。

- ・えにわはぴナビネットワークの中でいろいろな個別活動が進んでいるが、好事例の横展開であるとか、刺激し合いブラッシュアップしていく仕組みはあるのか？

→その役目を果たすのが、月1回のナビゲーターミーティング。

- ・49人の認定ナビゲーターに対し、現在活動されているのは29人だが、他の方が何をしているのかの把握はしているのか？

→市がアンケートを通じてフォローを行っている。



- ・日々のアドバイスはじめ、情報共有や連絡はどのように行っているのか？
→LINEのオープンチャットやSNS、それに市のホームページ。
- ・オープンチャットはルールを厳格にしないと管理運営が難しいと思うが？
→チャット内が荒れないように、まちサポで書き込みを管理している。
- ・悩みを抱える人が「はぴナビカフェ」にたどり着くための担保はあるのか？
→市の規模も大きくないし、各学校に1人はナビゲーターが居るのでそこで繋がる。
- ・子育てに悩むのは母親だけではないと思うが、父親への支援もあるのか？
→お父さんへの支援は、タイミングを見ながらパパマップも行っている。
- ・児童民生委員と家庭教育ナビゲーターの関係は？
→兼ねている人もいるが、組織母体が福祉課と教育委員会と異なり、年代も違うので一体的な活動は難しい。

5. 所感

- ・今回の会場である「フレスポ恵み野」に入った瞬間、出迎えていただいたのが、市議会議長はじめ、議会事務局、教育委員会、家庭教育ナビゲーター、まちスポ恵み野管理者9人全員が女性であったのに、まず驚き。
一年前であったら、この中の行政側は男性がほとんどであったとのことで、子育ての悩みを支援する体制が整った結果？とも受け取れます。
- ・しかも皆さん大変元気で、この人たちが仲間だと思えば心強い限りで、「はぴナビ」の取り組みが平成28年からコロナ禍も継続的に続いてきた理由がわかりました。
- ・「家庭教育ナビゲーター」の認定というお墨付きの部分には、北海道教育委員会が関与していますが、以降は市の助成や市教委の協力はあるものの、市民活動が中心であり今回の家庭教育ナビゲーターの皆さんも団体の代表やいろいろな役を兼ねられておりシビックプライドの一端を垣間見た気がします。
- ・今回の方々は、3人以上お子さんが居られる方も多く、ちょっと古いですが「肝っ玉母さん」という言葉を思い出しました。
- ・本市でも子どもの居場所の議論はよく聞かれるが、実はお母さんの居場所も大切だということ（お父さんも）を教えていただいた。
ただ、「本当の居場所は場所ではなくて（傾聴してくれる）人が居ること」という言葉に納得。
そういう人を育てて配していくことが大切だということに改めて気づかされた。
- ・恵庭市は、「ガーデニングのまち」としても有名ですが、これも市民の皆さんの主体的な活動からきているそうです。
市民のやりたいことを阻害せずに支援する、そういうことが行政に問われている気がします。
- ・シビックプライド推進のためにも、市民活動をどのように支援していくのかを本市としても考えていく必要がある。

＜同行者の所感＞

・恵庭市の家庭教育支援事業は平成 20 年に「家庭教育セミナー」の開催から始まった。平成 28 年に、北海道教育委員会が全ての保護者が家庭教育や子育てに関する学習・相談機会を日常的に得られるよう、各地域に保護者等の相互学習を促進する仕組みをつくり、家庭教育に関わる「学びのセーフティネット」の構築を図るため、「家庭教育ナビゲーター」の養成と、「家庭教育ナビゲーター」を中心とした保護者が気軽に参加できる学びの場「学びカフェ」創設事業を展開し、恵庭市として、「養成講座」を開催した。資格を得たナビゲーター同士の繋がりや主体的な活動につなげるため年 1 回「えにわままっぷ」を開催したが、年一回の活動では、支援に繋がらないとの意見を反映し、既に既存で事業化されていた月 1 回開催の「ママiku サロン わたしん家」を「学びカフェ」と位置付けて、養成講座やスキルアップセミナーなどの実施へとつなげてきた。

その後、「はぴナビカフェ あたしん家」となり、令和 4 年には、家庭教育支援チームとして文科省へ登録した。

現在、家庭教育ナビゲーターの有志による「えにわはぴナビネットワーク」の中心メンバーが所属する「NPO 法人まちづくりスポット恵み野」と「NPO 法人おはな」が隔月で「はぴナビカフェ」を企画・運営している。

子育て支援に関して、行政が立ち上がりや支援した形で、市民が活動母体となる支援団体に成長していることは、素晴らしいと考える。月 1 回行われる「はぴナビカフェ あたしん家」では、参加者にばらつきこそあれ、毎回 10 名を越える参加者がいることは立派である。

「えにわままっぷ」も年 1 回開催され、親子で参加できる企画で、毎回多くの参加者がいることもあり、徐々に浸透しているのだろうと感じる。

子育てを終えた世代が、一世代下である子育て世代の相談にのる形は理想的である。相談される側も、存在意義を感じながら職務を遂行できることと思う。

家庭教育支援、子育て支援については、アウトリーチによって問題が引き出される事が多いと感じる。ナビゲーターの養成と、その存在の告知も肝要で、身近に相談できる相手がいることが、安心につながる。今後の活躍には大いに期待するが、既存組織に新しい人材が参加するのは、なかなかハードルが高いのも事実。運用面でも工夫が必要かもしれない。

・恵庭市の「はぴナビカフェあたしん家」は、子育て支援の一環として、地域の親子にとって有意義な居場所となっていると感じた。居場所づくりには、地域の NPO やボランティアなどの協力が不可欠であると考えます。市としては、そのような団体や個人に対して、資金や施設、情報などの支援を行うことが重要であり、多様なニーズに応える柔軟性や創造性が求められる。恵庭市の事例から学ぶべき点は多くあるが、岡崎市独自の工夫や特色も必要である。岡崎市でも、市民の声を聞きながら、子育て世代の孤立や不安を解消するために、居場所づくりのモデルケースを作る取り組みをする必要があると考えます。